

平成27年度 世界自然遺産に関する 村民意見交換会概要報告（父島）

開催日時：平成27年10月17日（土）午後6時30分～8時50分

会場：地域福祉センター2階会議室

参加者：31名（父島村民19名、事務局関係者12名）

今回の意見交換会は、世界自然遺産に係る各機関の取組紹介と、世界自然遺産に関する村民意向調査の結果速報を行った後、村民参加型のワークショップを行いました。テーマは、「遺産登録100年後の小笠原～登録5周年を前に～」と、「動物と暮らすということ～ペットとの付き合い方～」で、村民の皆様が普段の生活の中で感じておられる素直なご意見をたくさんいただくことができました。一つ一つのご意見に真摯に向き合い、村民の皆さまにご協力いただきながら、世界遺産小笠原を守っていけるよう励んで参ります。

意見交換の内容を、テーマごとに以下にまとめました。

1. 世界自然遺産に係る各機関の取組紹介

＜外来種対策の進め方について＞（●：村民の意見 ○：行政機関の意見）

- 外来種対策が後手後手になっている。村民からの発見情報の受け皿を用意し、侵入初期の対処方法を考えてほしい。
- 外来種の確認情報は環境省や村の環境課に伝えていただきたい。（小笠原村）
- 水際対策の実施には村民の皆様のご協力も必要なので、合意形成の回り方、制度化するか否かなど、取組の進め方を模索している。（環境省）
- 役人の方は数年ごとに入れ替わっていくので、外来種の危険性に関する認識の浅いまま、外来種を持ち込んだりしてしまうのではないかと。（村民）
- 小笠原での赴任任期が2、3年だからと、いい加減な考えをするような職員がいては困る。赴任者は小笠原の環境配慮について研修を受けている。適切な理解・配慮ができていないか、適宜チェックをしていきたいと思う。（東京都）
- 環境配慮指針のようなものをきちんと作成し、チェック体制を伴った継続的な取組を行っていかねばならないと考えている。（村）
- 南島では村と東京都によるエコツーリズムの取組により、保全と利用のバランスがとられ、20年前に比べて環境が戻ってきた。うまく利用しながら自然を守ることが大切であり、外来種の侵入に対し行政機関だけで取り組めることは限界もあるので、皆様のご協力をいただきたい。（東京都）

2. 世界自然遺産に関する村民意向調査（結果速報）

＜意見交換＞（●：村民の意見 ○：行政機関の意見）

- 登録以前からの居住者の半数近くの方が世界遺産登録に対しての希望が「あまりない」もしくは「全くない」と回答している。どのような経緯で遺産登録にいたったのか。
- 平成15年に国が小笠原を世界遺産推薦地域に選定したのが発端となり、以降行政主導で登録推進の取組が進められた。登録前にも村民の方との意見交換の場を設けてきたが、登録後もこうしたコミュニケーションの場を大切にしたいと考えている。（村）

3. ワークショップⅠ：遺産登録100年後の小笠原～登録5周年を前に～

話題提供として、中高生向けの村民意向調査の結果より、中高生の考える「将来の小笠原」を紹介し、それをヒントに、「遺産登録100年後 2111年の小笠原はどうなっていてほしいと思いますか？」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、村民と事務局関係者の立場を分けず、参加した人全員に各個人の思いを付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表1に示しています。



ワークショップの開催風景

(環境省よりコメント)

- みなさんの希望が反映され、明るい未来が描かれた。このような将来像を実現するため、行政が主導するだけでなく、住民の方のお力も借りながら進めていきたい。遺産管理機関である行政も暮らしのことを十分に考えながら今後の施策を行っていきたい。

4. ワークショップⅡ：動物と暮らすということ ～ペットとの付き合い方～

話題提供として、「愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散に関する地域課題ワーキンググループ」についての説明を行い、その第1回会議で議論された「イヌ・ネコ以外のペットを登録制にすることについてどう思いますか？」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、回答の選択肢を「すごくよい」、「ややよい」、「どちらともいえない」、「ややいやだ」、「すごくいやだ」と設け、参加した人全員に該当する選択肢と選択した理由を付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表2に示しています。



ワークショップの開催風景

<意見交換> (●：村民の意見 ○：行政機関の意見)

- 街中のネズミ対策としては、殺鼠剤を撒くのか、住民が管理するネコを避妊した上で街ネコとして放すのか。(村民)
- ネコの飼養は、生態系被害の面でも、ネコの健康維持のためにも基本的には室内で飼っていただく方針である。(小笠原村)
- ネコの数を増やしてもネズミが減ることは期待できない。それよりも、生ゴミ等、ネコのエサになるものを除去したり、不特定多数のネコにエサをあげることを制止する方が大事である。(村民)
- 外で放し飼いしているネコや、登録されていないと思われるネコがいる。どう対応予定か。
- できるだけ室内で飼養いただくよう継続的に普及啓発を行っていく。(小笠原村)
- 当初の村のネコ条例では、登録に際して家主の許可が必要としていたが、家主の許可がなくても登録ができるよう条例を改正した。飼い主の会にも協力いただきながら、情報把握と登録推奨を行っていきたい。(小笠原村)

5. その他

<意見交換> (●：村民の意見 ○：行政機関の意見)

- 村の環境配慮指針の実施はどうなっているか。(村民)
- 東京都で実施している方法を参考にしながら、庁内で検討を始めている。(小笠原村)
- 無人岩が世界遺産に認定されなかったという結果しか聞いていないが、再登録に向けた動きはあるのか。(村民)
- 無人岩に関しては、登録をあきらめたわけではないが、登録に向けた方針や具体的な動きはない。(環境省)
- 島内で使用されている除草剤の発がん性について、きちんと説明を行ってほしい。
- ラウンドアップは農薬登録されているので、農水省や厚労省で発がん性に関する見解が出れば、それに準じて対応する。現状では、使用場所について、集水域をできるだけ避け、下流域に影響しにくい場所を選ぶなどの配慮をすることとしている。また、作業時は手袋をするなど、作業工程上の安全管理も徹底したいと思う。(林野庁)

Q 1. 遺産登録 100 年後 2111 年の小笠原はどうなっていてほしいと思いますか？

表 1 村民から出された意見（複数回答可。分類テーマは意見提出後に設定）

【暮らしと自然の共存】 16 件
<ul style="list-style-type: none"> ・自然へのダメージの少ない生活をする島民の住む町 ・生活の場と自然との境界線があるかも ・小笠原の海産物がたくさん食べられる ・自然がそのまま保たれつつ観光と共存できている島 ・人と自然の共存。住みやすい暮らしの中に自然保護が根付いている ・農業。低農薬低化学肥料で育った安全・安心の野菜や果物が食べられる島 ・自然と人が共存している島 ・豊かなくらしと自然の共生 ・過度の開発はしないで自然の残る島がいい ・村民一人ひとりが自然の変化・影響に関心があり行動できる・意識を持つ ・今と同じくらいの自然。その自然との付き合い方がもっと見えている島 ・自然エネルギーの導入 ・エコノミー優先ではなく、エコロジー優先の島の生活 ・食糧自給率 UP ・食べもののあふれるおいしい島 ・ヒトも外来種だったということに気づいて生活している島になっていると思う。
【豊かで健全な自然】 12 件
<ul style="list-style-type: none"> ・生きものもあふれる生命豊かな島。島もコウモリも昆虫もたくさんの植物も。 ・固有種の動物園 ・固有種と外来種がいいバランスで共存できている島 ・絶滅危惧種がない（少ない）島 ・オオコウモリが母島にもいる ・豊かな森林が復活した島 ・アカポップが電線に並んでいる様子 ・外来種のない森 ・たくさんの固有種が生きている世界 ・外来植物が見当たらず、全て自生種が生えている島（街中も） ・固有動植物だけでなく、新しい小笠原の魅力が見つかっている ・現在のガラパゴス諸島のような管理がなされた島
【子どもから老人まで住み心地がよい】 9 件
<ul style="list-style-type: none"> ・今より交通の便がよい ・安心して老後が暮らせる島（医療の充実） ・老後まで小笠原で住める ・100 年後は生きていないのでわかりませんが、みんなが小笠原に住めて良かったと思える島になってほしいです。 ・島の子供たちが島の保全・保護に活躍している ・子どもたちが井の中の蛙にならないように、自分の力で生きていこうという考え方ができるよう、村が教育の力を入れてほしい。 ・子どもたちがのびのびとたくさん生活できる島 ・若い世代や子どもの多い活気のある島 ・子どもがたくさんいる
【観光の活性】 5 件
<ul style="list-style-type: none"> ・海路が発達し、海外との行き来ができる港がある。 ・空港はなくても航空路は確保されていて、観光が活性化している ・有人島だけでなく無人島にも観光で来島し、自然を楽しめるようになっている ・空港があり国際航路がある ・国内からでなく国外からも多くの観光客が来島する島

【美しい海・景色】 5件
<ul style="list-style-type: none"> ・前浜で星が見える（街灯を少なく） ・今と変わらずきれいな海や景色がすぐ近くにある ・きれいな海⇒基本的には変わって欲しくない。 ・空気と水のきれいな島 ・透明度の高い海が残っている
【自立した小笠原】 3件
<ul style="list-style-type: none"> ・役人主導ではなく住民主導。補助金にたよらない村民の生活 ・自立した小笠原 ・東京都から独立している
【静かな小笠原】 2件
<ul style="list-style-type: none"> ・人が少ない ・このまま不便な島であってほしい。飛行場いらない。

Q2. ペットを登録制にすることについてどう思いますか？

表2 村民から出された意見（複数回答可）

【いやだ】 (0件)	【ややいやだ】 (0件)	【どちらともいえない】 (4件)	【ややよい】 (8件)	【すごくよい】 (13件)
		<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録する意味がわからない 種によって登録が必要なものとそうでないものがあるのではないかと。 固有種とかを守るのならよいが、自分が飼い主ならめんどくさい。 個人でペットを飼ったことがないので気持ちが分からない。 	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 登録制のみですべてが解決するわけではないので。 管理が難しいのでは。すべてが把握できるのかが問題。 ペットの種類によって区別する。 外来種ワースト10などの危険なペットには登録を必要とするのがよいが、それ以外は登録までの必要はないと思う。(グッピーはいかがなものか) 万が一逃げ出しても、その情報があれば行政側も対応しやすいと思います。 自然環境の脆弱性を正確に理解してもらうためにも必要と感じる。ただし登録のためにコストが発生すると実際には難しいと思う。 一生、責任を持って飼うという飼い主の意識付けが無いとうまくいかないと感じる。 ややよい 	<p>(提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全頭登録にしてほしい。登録されている動物は適正に飼育する指導を！ すべての動物は登録の方がよい。さらに植物の新たな導入もとどけるべき。 家畜も登録の方がよい。 カメ、オウム、小動物（哺乳類、大型のヘビ・イグアナなど）の登録はすべき。 家畜・植物はそれにくっついている生物“ノミ”や、それにいる微生物“カビ、菌類”も問題である。 <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 多かれ少なかれ、自然遺産登録による経済的な恩恵を受けている方が多いと思う。「最も大切なこと」というアンケート結果も踏まえると、必要なことと思う。 小笠原のデリケートな自然を守るため 平等になるので 集合住宅ではトラブルのないように。 <p>すごくよい (課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全てを把握しきれるか。 「動物を飼えなくなる」という誤解を生まない啓発が不可欠。 実際に管理者（行政や関係者）が把握管理できる範囲の見極めが大切。